禁 転 載 複 製
当 日 配 付
試験終了後公開

B42

「中央職業能力開発協会編」

令和６年度 技能検定
２級 建築大工 学科試験問題
(大工工事作業)

1. 試験時間　1時間40分
2. 問題数　50題(A群25題、B群25題)
3. 注意事項
   (1)　係員の指示があるまで、この表紙はあけないでください。
   (2)　答案用紙(真偽法と多肢択一法の併用)に検定職種名、作業名、級別、受検番号、氏名を必ず記入してください。
   (3)　係員の指示に従って、問題数を確かめてください。それらに異常がある場合は、黙って手を挙げてください。問題はA群(真偽法)とB群(多肢択一法)とに分かれています。
   (4)　試験開始の合図で始めてください。
   (5)　解答の方法(真偽法と多肢択一法の併用)は次のとおりです。
   イ.　A群の問題(真偽法)は、一つ一つの問題の内容が正しいか、誤っているかを判断して解答してください。
   ロ.　B群の問題(多肢択一法)は、正解と思うものを一つだけ選んで、解答してください。二つ以上に解答した場合は誤答となります。
   ハ.　答案用紙(マークシート用紙)へ解答する際は、答案用紙に記載されている注意事項に従ってください。
   ニ.　答案用紙の解答欄は、A群の問題とB群の問題とでは異なります。所定の解答欄に、試験問題の題数に応じて解答してください。解答欄はA群は50題まで、B群は25題まで解答できるようになっています。
   (6)　電子式卓上計算機その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
   (7)　携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等は、使用してはいけません。
   (8)　試験中、質問があるときは、黙って手を挙げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
   (9)　試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (10)　試験中に手洗いに立ちたいときは、黙って手を挙げて、係員の指示に従ってください。
   (11)　試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、係員の指示に従ってください。

［A群（真偽法)］

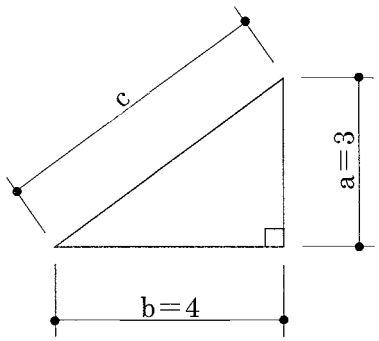
1　木造建築物において、強風や地震に耐える構造とするために、火打ち等の斜材を入れる。

2　木造建築物ではり間の大きい小屋組には、和小屋よりも洋小屋の方が適している。

3　厚さ12mmのフローリング張りとする床組の根太間隔は、450mmとする。

4　RC造とは、鉄骨造のことである。

5　次図において、三辺の長さの割合a：b：c＝3：4：5は、正しい。

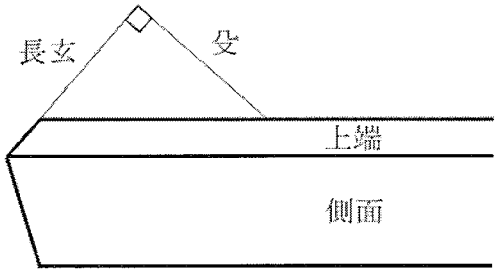


6　規矩術において、次の式は正しい。

$$玄=\sqrt{(妥)^2+(中勾)^2}$$

7　隅木の下端に出す桁との取合い墨は、隅長玄勾配である。

8　次図は、鼻隠し上端、隅木取合い切墨である。



9　手押しかんな盤で木材を加工する場合は、安全カバーをしなくてもよい。

10　硬材をかんなで削る場合、かんな刃の仕込み勾配(切削角)は、軟材を削る場合よりも急勾配にするとよい。

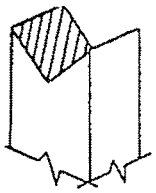
11　木造建築物の施工計画は、木工事のみを計画して作成すればよい。

［A群（真偽法）］

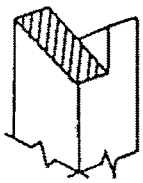
12　仮設足場で単管を使用する場合、筋かいの止め金具には、自在クランプを使用する。

13　水盛り・遣方に使用する水貫は、水杭に水平に取り付ける。

14　次図の水杭の頭頂部の切り方のうち、いすか切りは、図Aである。



図A



図B

15　割栗地業とは、割栗石を小端立て密着にさせて並べ、すき間に目つぶし砂利を敷き込み、突き固めることをいう。

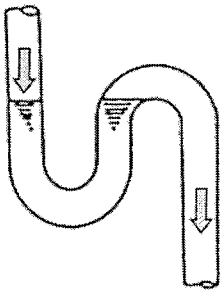
16　送り継ぎとは、木材の元口と末口とを継ぎ合わせることをいう。

17　柱と敷居の取合いの一つに、一方を目違い入れ、他方を横栓打ちとする方法がある。

18　次図のような金物は、土台又は基礎と柱及び上下階の柱相互の接合に適している。



19　次図の給排水衛生設備工事に使用するトラップは、Pトラップである。



20　打設終了後のコンクリートは、直射日光、寒気、風雨等を避けるために、シート等で養生するとよい。

［A群（真偽法）］

21　木材は、未乾燥材の方が、乾燥材よりも強度が大きい。

22　木工事で使用するくぎの長さは、特記がない限り、原則として、材料の厚さの2.5倍以上とする。

23　日本産業規格(JIS)の建築製図通則によれば、製図に使用する寸法の単位は、原則として、センチメートルとする。

24　労働安全衛生法関係法令によれば、足場を組み立てる等の方法により作業床を設けなければならない作業箇所の高さは、2m以上とされている。

25　労働安全衛生法関係法令によれば、労働者は、作業場の清潔に注意し、廃棄物を定められた場所以外の場所にすてないようにしなければならない。

［B群（多肢択一法）］

1　建築基準法関係法令によれば、建築物の主要構造部の名称の組合せとして、正しいものはどれか。

イ　基礎・土台・間柱
ロ　筋かい・火打材・方づえ
ハ　柱・床・階段
ニ　むな木・母屋・たる木

2　木造2階建住宅の柱で、一般に、断面寸法が最も大きいものはどれか。

イ　通し柱
ロ　半柱
ハ　管柱
ニ　間柱

3　木造建築物の軸組に入れる筋かいに関する記述として、誤っているものはどれか。

イ　はり間方向、桁行方向に、つり合いよく配置する。
ロ　筋かいと間柱の交差部は、間柱を欠く。
ハ　圧縮力を負担する筋かいには、鉄筋筋かいを使用する。
ニ　端部は、ボルト、かすがい、くぎその他の金物で緊結する。

4　建築構造形式に関する記述として、誤っているものはどれか。

イ　トラス構造は、直線材をピン接合し三角形に組合わせて構成した構造である。
ロ　ラーメン構造は、部材と部材とをピン接合とした構造である。
ハ　鉄骨鉄筋コンクリート構造は、鉄骨を中心として、その周囲を鉄筋コンクリートの部材とした構造である。
ニ　補強コンクリートブロック構造は、耐震性を高めるため、鉄筋で補強した組積造のことである。

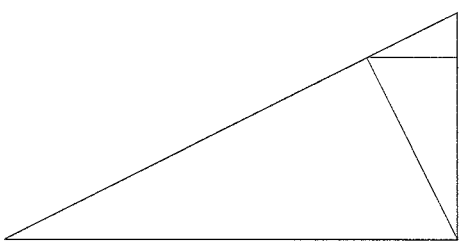
5　次図の骨組を支えている支点記号のうち、固定支点を表すものはどれか。



イ　　ロ　　ハ　　ニ

6　次図は、規矩術の基本図であるが、図中にないものはどれか。

イ　短玄
ロ　長玄
ハ　小叉
ニ　小中勾



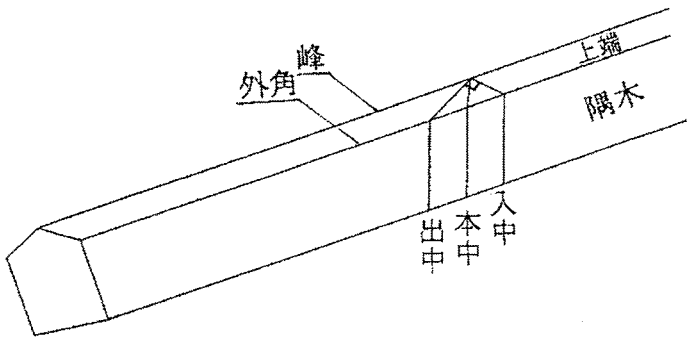
［B群（多肢択一法）］

7　隅木の直角断面の山勾配として、正しいものはどれか。

イ　隅勾配
ロ　平勾配
ハ　中勾勾配
ニ　隅中勾勾配

8　次図に示す山取りした隅木の上端墨において、入中から本中へ向かう墨のさしがね使いとして、正しいものはどれか。

イ　長玄の返し勾配
ロ　長玄勾配
ハ　隅長玄勾配
ニ　短玄勾配



9　丸刃をグラインダで修正する場合、木工用の刃物を研磨する作業順序として、正しいものはどれか。

イ　中砥　→　荒砥　→　グラインダ　→　仕上げ砥
ロ　グラインダ　→　中砥　→　仕上げ砥　→　荒砥
ハ　グラインダ　→　荒砥　→　中砥　→　仕上げ砥
ニ　仕上げ砥　→　グラインダ　→　荒砥　→　中砥

10　のこ刃のあさり幅に関する記述として、一般に、適切なものはどれか。

イ　のこ身の厚さよりも幅が狭い。
ロ　のこ身の厚さと同じ。
ハ　のこ身の厚さよりも1.3～1.8倍程度幅が広い。
ニ　のこ身の厚さよりも2.5～3.0倍程度幅が広い。

11　木造建築物の仕口とその仕口に使用する金物の組合せとして、誤っているものはどれか。

	(仕　口)		(金　物)
イ	土台と柱	・・・	アンカーボルト(M12)
ロ	通し柱と胴差し	・・・	羽子板ボルト
ハ	軒桁と柱	・・・	山形プレート
ニ	管柱と胴差し	・・・	ひら金物

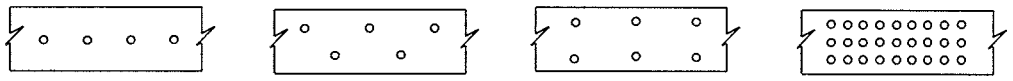
［B群（多肢択一法）］

12　次のうち、仮設工事はどれか。
　イ　基礎工事
　ロ　屋根工事
　ハ　足場工事
　ニ　板金工事

13　大矩（おおがね）の用途として、正しいものはどれか。
　イ　高さを出す。
　ロ　水平を出す。
　ハ　正三角形を出す。
　ニ　直角を出す。

14　基礎構造の名称として、誤っているものはどれか。
　イ　リシン基礎
　ロ　布基礎
　ハ　独立基礎
　ニ　べた基礎

15　次図のくぎ打ちのうち、千鳥打ちはどれか。



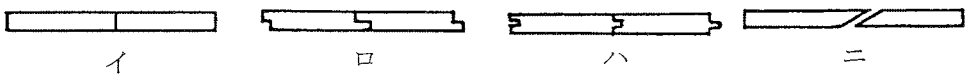
　イ　　ロ　　ハ　　ニ

16　木構造の各部材とその仕口の組合せとして、適切でないものはどれか。

	（各部材）		（仕口）
イ	小屋ばりと軒桁	・・・	かぶとあり掛け
ロ	母屋と小屋づか	・・・	渡りあご掛け
ハ	通し柱と胴差し	・・・	傾ぎ大入れほぞ差し
ニ	土台と間柱	・・・	突き付け

17　柱に背割りする主な目的として、最も適切なものはどれか。
　イ　柱の乾燥を速くするため
　ロ　柱の見付け面の割れを防ぐため
　ハ　柱の強度を高めるため
　ニ　柱を軽くするため

18　次図の床板加工のうち、突き付けはどれか。



　イ　　ロ　　ハ　　ニ

［B群（多肢択一法）］

19　建築材料とその主な用途の組合せとして、適切でないものはどれか。

	材料		用途
イ	シーリング材	・・・	外壁の目地
ロ	せっこうボード	・・・	浴室の天井仕上げ
ハ	シージングボード	・・・	外壁下地
ニ	磁器質タイル	・・・	外壁仕上げ

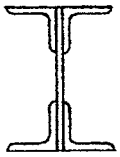
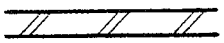
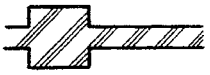
20　アルミニウムに関する記述として、誤っているものはどれか。

イ　アルカリに侵されにくい。
ロ　モルタルに接触させない方がよい。
ハ　鉄に比べて熱膨張が大きい。
ニ　鉄に比べて材質が柔らかいのでキズが付きやすい。

21　集成材に関する記述として、誤っているものはどれか。

イ　長大な材料を作ることができる。
ロ　無垢材に比べて、ひび割れなどが多い。
ハ　狂いが少なく、強度が大きい材料を作ることができる。
ニ　わん曲した材料を作ることができる。

22　日本産業規格(JIS)の建築製図通則によれば、材料構造表示記号と表示事項の組合せとして、誤っているものはどれか。

イ	ロ	ハ	ニ
			
鉄骨	軽量壁一般	コンクリート及び鉄筋コンクリート	普通ブロック壁

23　文中の(　　)内に当てはまる数値として、正しいものはどれか。

建築基準法関係法令によれば、原則として、居室の天井の高さは、(　　)m以上でなければならないとされている。

イ　2.7
ロ　2.4
ハ　2.1
ニ　1.8

［B群（多肢択一法）］

24　文中の(　　)内に当てはまる数値の組合せとして、正しいものはどれか。

建築基準法関係法令によれば、住宅の階段(共同住宅の共用の階段を除く。)の蹴上げは(　A　)以下、踏面は(　B　)以上とすることができる。

	A	B
イ	20cm	14cm
ロ	23cm	15cm
ハ	25cm	14cm
ニ	25cm	15cm

25　労働安全衛生法関係法令によれば、移動はしごの幅として、正しいものはどれか。

イ　25cm以上
ロ　30cm以上
ハ　35cm以上
ニ　40cm以上